

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4490400217 | | |
| 法人名 | 医療法人 聖峰会 | | |
| 事業所名 | グループホーム さくら | | |
| 所在地 | 日田市有田町455-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 3月 13日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年4月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_02_2_kani=true&JigyosyoCd=4490400217-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 第三者評価機構 |
| 所在地 | 大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府庁番館 1F |
| 訪問調査日 | 令和5年3月23日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>利用者の持つ能力、残存機能を最大限に発揮できるような環境づくり。 利用者だけでなく、職員も一緒に楽しみながら笑顔で1日を過ごしていただけるような生活の場の提供。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>開設当初から法人理念「地域に根ざしたグループホームを目指し、地域貢献に～」を大切に事業所で出来る限りの協力(自治会員)をしており、お互い助け合う相互関係が成立しています。併設するデイサービス・小規模多機能施設とともに利用者・職員の交流等総合的な支援による運営が行われています。庭の草木や玄関先のプランターには四季折々の花が咲き、利用者と一緒に水やりや草取りの手伝い等、気分転換を図る利用者の姿が見られます。レクリエーション等の支援に関しても「職員が楽しくなければ、利用者は楽しめない」をモットーに管理者・職員は様々な生活の場で、利用者が楽しめる支援を提供しています。身体機能維持(指先のリハビリ)で包帯巻きや趣味の支援等個別支援に取り組んでいます。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

3評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | |
| (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人と事業所の理念は玄関に掲げ、職員と共有を行っている。 | 法人と事業所の理念は玄関に掲示し、いつでも確認できるようにし研修や会議等で振り返ることで、職員の意識の共有を図り実践に繋げています。 | |
| (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年もコロナの為、地域活動もなく、地域交流は出来ていない | 自治会に加入しており、地域の情報の収集や事業所の現状を発信したり、ボランティアの受け入れ、地域行事の参加や協力等交流を図っていましたが、現在はコロナ禍により自粛しています。今年は通常の交流を復活させる予定です。 | |
| | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 他の施設や病院で見えなくなった利用者の受け入れを積極的に行っている。 | | |
| (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 本年も2回、コロナ対応の為、文書にて報告。11月より会議室にて開催。ヒヤリハットの報告等を行い、市や自治会からの意見を頂いている。 | 運営推進会議は自治会長・民生委員・市担当者・地域包括支援センター職員・派出所職員・介護相談員等のメンバーで年6回開催していますが、現在コロナ禍の状況により書面での会議を行い11月より事業所にて開催しています。活動状況を報告し意見交換を行っています。 | |
| (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議などを通じて、知り合った担当者と連携を取り、協力をお願いしている。 | 運営推進会議の場や市主催のグループホーム協議会への参加を通じ、市担当者との連携強化を図っています。 | |
| (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の勉強会を開いたりして、ベットの柵等は必要最小限にし、外に出たい利用者には希望時に散歩に出たりしている。 | 年間研修計画に身体拘束廃止・虐待防止の研修及び勉強会を年2回以上開催しています。身体拘束の内容とその弊害を認識し、スピーチロック・言葉遣い(言葉掛け・方言等)を職員間で話し合い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。 | |
| | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年間の研修に入れ、ビデオ研修などにて学習し、職員同士で注意しあい、防止に努めている。 | | |

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----|--|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | コロナの為、外への研修機会がなく、出来ない。 | | |
| | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行い、家族の希望も伺っている | | |
| (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時には管理者やケアマネが対応し、家族との話を聞いている。 | 「レクリエーションは職員が楽しくなければ利用者は楽しめない」をモットーにリハビリ(指の体操)・洗濯物たたみ等を支援する中で、利用者との会話が弾み意見等の把握にもなっています。家族にはバレンタイン・年賀状の手紙を利用者が出し、その返信や電話連絡で意見を把握しています。 | |
| (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月ミーティングを行うとともに、ライン等を活用し個別の案件にも対応している。 | 主任制度をつくり、職員の意見を取りまとめ、管理者に報告し、その結果はミーティングで話し合い出来ることは迅速に取り組んでいます。年2回の個別面談でも職員との意見交換の機会を設けています。 | |
| | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年1回、法人がストレスチェックを行うなどして、職員の心のケアに勤めている。 | | |
| | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人にはアセッサー制度を設け、毎月の法人の研修を義務付けている。 | | |
| | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 日田市のグループホーム協議会に参加し、合同での研修が行われた。 | | |

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|---|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約時におおよその事は聞き取りを行って いるが、入居された後は、なるべく話をする 機会を設けるようにしている。 | | |
| | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている | 契約時に行っている。 スタッフが出来る事、出来ないことを話し会 う機会を持ち、その利用者にあつたサービ スを提供している。 | | |
| | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている | 契約時に聞き取りを行ったことを、サービス 担当者会議を開くことで、ケアプランに反映 させている | | |
| | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者、職員共に楽しむように指導してい る。 職員も、利用者が何に興味を持っているか 等、聞き取りを行い、利用者が喜んでもら うよう努力している。 | | |
| | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている | 面会時には家族とのコミュニケーションは忘 れず、お互いに協力し合う体制を整えてい る。 家族との縁が切れないように衣替えなどを 家族に対応して頂いている。 | | |
| (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナの為、面会や外出の制限があつた 為、支援があまり出来なかった。 | コロナ禍でも家族との繋がりを大切に、面会 や電話・手紙等支援を行っています。感染状 況が落ち着けば家族の協力で外出(ドライ ブ)や帰省等通常の支援を計画しています。 | |
| | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている | 常に職員が見守り利用者同士の間に入るこ とで、利用者同士の関わりに携わっている。 | | |
| | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了時は関係を続けていく事は難 しい。 | | |

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントを参考に、生活歴や趣味等を聞き取り、本人らしさを尊重し、プランや生活に取り入れる努力を行っている。 | アセスメントや家族の話、利用者と寄り添い関わる時間を増やし、思いや希望を把握し支援に繋げています。利用者の言葉や表情・仕草等ミーティングノートを使い職員間で情報共有をしています。 | |
| | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人やご家族の方に習慣や好きな事を聞き取り、歌や畑仕事を生活に取り入れている。 | | |
| | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | それぞれ、フロアや居室で過ごされる方の思いに応じた生活が出来るよう、所在確認等の記録を行っている。 色々なことを見守りながら行ってもらい、どのくらい出来るのかの把握を行っている。 | | |
| (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議を行うことで、家族には現状の把握を行って頂き、今後の希望や支援方法を行う。 3か月ごとに計画の評価を行い、見直しを行っている。 | サービス担当者会議にて家族や関係者と話し合い、利用者の現状・ニーズ(思いや好きなこと)を重視した具体的な目標・支援方法を設定し、介護計画を立案しています。3ヶ月毎のモニタリング・評価及び見直しを行っています。 | |
| | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ミーティングノートを活用し、情報の共有を行っている。 毎月のミーティング時に各担当者がスタッフからの聞き取りを行ったり、アイデアをもらい実践に生かしている。 | | |
| | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 他の施設に比べ、柔軟な対応は出来ていると思う。 (お酒が飲みたいという利用者に、ビール等のアルコールの提供など) | | |

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|---|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 小学校や支援学校との交流を行っている。鼓笛隊パレードの受け入れや、訪問しての学生との交流など。 | | |
| (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人のかかりつけ医はそのままに、往診や受診援助にて対応出来ている。 | 利用者がかかりつけ医を希望する場合は、意向を尊重しています。週に1回、3人の訪問診療に来て頂く医師に、直前の健康状態の変化等の記録を、iPadで看護師資格を持つ職員が記録したものを、見て頂き適切な医療支援に努めています。 | |
| | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職も介護現場に入っている為、常に情報の共有は出来ている。 | | |
| | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は看護添書を活用し、看護師同士でのコミュニケーションは取れている。退院時等の情報は、病院のワーカーと連絡を取りながら管理者が情報の共有を行っている。 | | |
| (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りを行う際、ご家族、主治医、訪問看護で話し合いを行い、事業所で出来る事、出来ない事の情報共有を図っている。 | 看取りに関しては、入所時にキーパーソンと話し合いを持ち、状態の変化に応じてどこまで事業所に対応できるか、医師・家族・職員間で情報共有し、家族の思いを尊重して支援に努めています。共有空間で、みんなと一緒に声掛けや手を握って見送りました。 | |
| | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のオンコールフローチャートの作成は出来ている。AEDの研修を考えている。 | | |
| (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を行っている。 現在は火災限定な所があるので、今後、地震・水害に対応したBCP作成に取り組む。 | 年2回、消防署と連携し避難訓練を実施しています。水害・地震などに対応出来るBCP(事業継続計画)の作成を関連事業所と話し合い、早期策定に努めています。地域の災害時の一時避難場所として、提供する事もあり地域住民と協力体制が出来ています。 | |

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|--|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 基本、相手を思いやり、敬語で話すように心がけている。 | 何か訴えがあった時は、人格の尊重を基本に利用者の思いに沿って丁寧に対応することに努めています。新しい入所者には、積極的に話しかけ生活歴や自分でしたい事を汲み取り、愛称での呼びかけを喜ぶ利用者はそのように対応しています。 | |
| | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に声掛けを行い、その時に何がしたいかを自己決定していただき、職員の都合で動かないように心がけている。 | | |
| | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 上記のとおりだが、意思決定できない利用者に対しては、こちらからの提案の中で選んで頂き、無理強いはいしていない。 | | |
| | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自己決定が難しい利用者には、スタッフや家族の支援にて行っている。 朝の整容は出来るところまで自分で行って頂き、出来ないところのみ支援している。 | | |
| (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 普段は行っていないが、月に1回程度、何を食べたいか聞き取りを行い、スタッフと一緒に調理することはある。(行事として) | 食事は全食手作りで、利用者の嗜好調査を行い、それを考慮したうえで提供しています。パンの嫌いな方に、行事食やイベント等でお菓子に変えたり他の調理方法で食べて頂くことがあります。刻み食や、流動食で自力摂取の支援に努めています。 | 施設内で調理専門職員手作りの食事は、おかずもご飯も温かく食べやすい料理で殆んどの利用者は完食でした。お箸使用の方も多く、上品で食べやすい器は、心配りが感じられ食事を楽しめる支援となっています。 |
| | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の量や水分の量は記録し、水分制限や禁忌食などの確認を毎日行っている。 | | |
| | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、必ず職員の声掛けにて行っている。 出来る範囲で行ってもらい、出来ていない部分はスタッフの介助にて行っている。 | | |

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|--|---|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者全員に、定時での声掛けを行い、排泄チェックに記録することで、排尿の間隔を把握している。 トイレ内では出来ない部分だけを介助している。 | 利用者の、排泄パターンを把握し定時に声掛けしていますが、一人での排泄可能な利用者は、本人の行きたい時に、傍で見守りをし利用者の出来ない事だけを介助し、排泄の自立支援にむけた取り組みを行っています。 | |
| | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックを記録することで、量や間隔を把握し、腹部マッサージを行ったり、牛乳を飲ませたりして排便を促している。 | | |
| | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は施設で決めているが、声掛けに拒否が見られたときは、時間をずらすなどの対応を行っている。終日気分が乗らない場合は、曜日を変える等の対応を行っている。 | 入浴は週に2回、1日3人となっていますが拒否が多い利用者は、タイミングを見計らって声掛けし、曜日や時間を変えることで一人ひとりの希望に沿った楽しい入浴時間となるよう、柔軟に対応する事で清潔保持に努めています。 | |
| | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼間は散歩や日光浴を行ったりし、夜や夜間帯はそばに付き添い、話をゆっくりきく事で心穏やかに休んで頂けるよう心がけている。 | | |
| | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情にて何の薬化を把握し、飲ませる際にも2人で確認を行い、飲み忘れや、内服間違いがないようにしている。 | | |
| | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 自宅でも行っていた、掃除や洗濯ものたみを行って頂いたり、調理レクを開催し、食事やおやつ作りを楽しんで頂いている。 | | |
| | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や体調を考慮し、近隣の散歩や利用者の日用品の買い物、畑の草取りを行う等の支援を行っている。 | コロナ禍の今は、自由に外出することは少なくなっていますが、利用者の希望でコーヒーや日用品の買い物に行く利用者は、体調や天候の良い時を考慮し外出支援をしています。近くの公園や花見に行つて、昼ご飯を食べる等の外出支援が出来るよう計画しています。 |

| 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|--|--|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は預り金として施設にて預かっている。希望する利用者には財布の中に最小限のお金を入れて持っていてほしい。 | | |
| | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や親戚からの電話の取次ぎを行ったり、希望があれば施設から電話をしている。 | | |
| (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 施設内には職員や利用者の手作りの作品を飾り、毎月、その季節に合った作品を制作し、展示している。室温や湿度の調整を行い、くつろげる空間づくりを行っている。 | 多くの時間を過ごす共用空間を、個々の利用者の居心地の良い場所とする為に、自由に好きな事が出来るよう支援しています。居室内のソファの配置や、テレビ等も安全に配慮して設置しています。広い居室の安全対策の為、スタッフは利用者全員が見える位置に常駐して見守りを行っています | |
| | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビとソファを離れた場所2か所に配備し、利用者の好きな場所で過ごせる環境を作っている。 | | |
| (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れたものを自宅から持ってきていただき、写真やプレゼントを置くことで、利用者が居心地よく生活できる環境づくりを行っている。 | 自宅での生活の延長として、個室に使い慣れた物や趣味の物を置いて自由に過ごせるよう、安全に配慮して部屋作りの支援をしています。昼寝をしたり食事の時間まで自室でのんびりと出来るように、担当職員が見守り支援に努めています。 | |
| | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に生活できるように、椅子やソファの配置を考え、介助を必要最低限にする環境作りを行っている。 | | |